

千秀だより

横浜市立千秀小学校

4月号

平成30年(2018)4月 5日



平成30年度のスタートに当たって～子どもたちって素晴らしい。

校長 市川 幸男

平成30年度が始まりました。穏やかな風に舞う桜の花びらが、本格的な春の訪れを告げてくれます。そのあたたかな陽光の中、子どもたちが元気に登校して参りました。一つ進級した子どもたちの表情には、新しい学年へのちょっぴりの不安と、進級する喜びや希望が感じられました。新年度は、新しい出会いによって始まります。子どもたちは新たな友達、新たな担任との出会いをきっかけに、新たな気持ちで学校生活をスタートすることと思います。教職員一同、目標をしっかりと共有し、今年度の第一歩を踏み出す子ども達の思いを応援していきたいと思えます。本日、45名の1年生を迎え、児童 236名、12学級、教職員28名で、千秀小学校の平成30年度がスタートしました。ご入学・ご進級、まことにおめでとうございます。

さて、昨年度の卒業式で「千に秀でた子」について述べました。「千に秀でる」とは、「より広くより深く」と捉え、単に知識の量の多さだけでなく、身につけた知識を活用し、自らの力でさらに深めていく能力でもあること、そしてその能力で、倦むことなく自分をより高めていく姿勢も合わせたものと捉えている。だから皆さんは、これからも千秀小学校で、そして新たな世界で延々と学び続けて行く覚悟をもってほしいと卒業生や全校児童に呼びかけました。

振り返ってみますと、子どもたちの学校での学びは、人類の学びの歴史でもあります。一説には人類(ホモ=サピエンス:新人)の誕生は、今から凡そ30万年前とされています。それまでの原人や旧人と比較して、新人は思考する力やものを操作する力に優れていたと言われます。その後、新人は旧人を退け、その数を増やし、幾世代も命を繋ぎ、現在に至るのですが、その間、火山の噴火による災害やそれに続く氷河期をなどの多くの人類的危機をのりこえる中で、例えば言葉による意思の伝達や、文字の発明、道具の改善・活用、無いことの証明としての「0」の発見、地球の存在等々、常にそれまでの考えを見直し、改善したり新たな考えを導き出したりしてきました。ここで、例に挙げた言葉や文字の学習、そして「0」やその他の数に関わる学習、地球を含む自然界あるいは人間社会の多くの決まり(法則)に着目してみましょう。それはまさに小学校で学ぶ学習内容と一致致します。小学校で学ぶこと、それはまさに人類が何万年にも及ぶ歴史の中で、獲得してきた知識と技能なのであります。そして「千に秀でる」の表す自分の力で深めていくという活動は、人類が努力して発見・発明してきた工夫の過程をたどるということでもあります。そう、子どもたちの学校での学びの日々は、すごいことの連続を経験なのだと思います。

新年度開始に当たって、子どもたちの学習を各ご家庭でも補助・支援いただけると思いますが、その際にこの紙面で書いたことなど思い出していただければ、性急に結果を求めず、子どもたち個々のペースを認め、学びを励ましてあげられると思います。何しろ、人類誕生以来の30万年の重みのある英知を学んでいるのですから。

本年も学校職員一同、精一杯子どもたちの幸せの実現のために取り組んでまいります。どうぞ、ご理解・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。